

令和4年度 第3回 東かがわ市地域公共交通活性化協議会協議要約

日時 令和5年2月28日(火) 15:10~16:45

場所 東かがわ市引田公民館3階ホール

■議事次第

2 今年度の取組事業報告

・小海あいのりタクシー実証実験報告

○事務局より資料1に基づき実証実験の結果報告を行った。

会長) 小海地区の方は本日欠席だが、運行に関わったタクシー事業者から何かあればお願いしたい。

委員) 期待していたが結果2名ということで、もう少しやり方を考えたほうがよかったと思う。

委員) 小海地区は自分で運転する方が多いように感じる。もう少し地区を選んでよかった。

会長) 説明にはネガティブな情報が多かったが、2名であってもメリットもあったと思う。計画策定の段階から分かっていたが、東かがわ市ではほとんどの方は(移動が車中心で)公共交通を利用していない。今車を運転している方にどう働きかけるかが課題。

制度自体は継続してはどうかと思う。継続することで口コミで広がっていくことも考えられる。

利用が少なかったので終わりではなく、カスタマイズするなど、チャレンジしてはどうかと思う。

多くの住民に働きかけていくなど、引き続き地域との対話の継続を。

委員) 利用には事前に登録が必要だったか、期間途中の登録は可能だったか。

事務局) 途中からの登録も可能とした。また、当初は期間全体で2,000円としていたが、期間後半の11月からは半額の1,000円で利用可能として登録募集した。

委員) 口コミを強化すればもっと増えたように思うが、そうした周知は行ったか。

事務局) 協議会を中心に、利用が想定される方に対して個別にあたってもらったりもしたが、登録には繋がらなかったと聞いている。

会長) 値段設定など課題はいろいろあると思うが、いかにして家に引き込まないようにできるか、という視点で考えることも必要。

委員) 今回、実証実験の利用者が少なかったということは、小海地区では家族や知人が高齢者等の移動を支えており、家族や地域がコミュニティとしての機能を果たしていることの表れと思われる。地域のコミュニティが機能していることが確認でき安心した。ただ、頼れる人がいない場合はどうなっているのかが気になった。そういった声はなかったか。

事務局) 小海コミュニティ協議会は地域の方で構成されており、ある程度地域の中の家族構成等も把握されており、高齢者のみの世帯や独居の方などに今回の制度の声掛けをしていただいたと聞いている。そうしたケースでも近くに家族がおり、週末などに買い物をするなど支援されているとのことだった。

委員) 最近、農村RMO(農用地保全活動や農業を核とした経済活動と併せて、生活支援等地域コミュニティの維持に資する取組を行う組織)というものが注目を集めている。こうした観点からも非常に参考になる取組みだった。

会長) 普段は家族に送迎してもらえる人でも、急な外出や家族が対応できないときに制度があれば対応できる。そういう意味でも大事な指摘だったように思う。

・東かがわ市におけるモーダルミックス実証実験報告

○担当委員が資料2に基づき実証実験の結果報告を行った。

委員) 当初の想定は、鉄道の便がない時間帯を路線バスの活用により対応する、という考えでよいか。

委員) そのとおり。

委員) 逆にバスの定期で鉄道に乗るということはしなかったのか。

委員) 鉄道のオペレーションの面でそれはできていない。

会長) 資料によると引田⇄三本松間の定期券販売数は約40枚、三本松高校の生徒が下りの鉄道のない時間帯に無料でバスを活用したと想定される。路線バス側からなにか補足があればお願いしたい。

委員) 想定よりも利用が多かった。三本松高校の生徒がそれほど多く定期券を購入しているとは思っていなかった。志度高校の生徒が三本松まで鉄道を利用して、そこから乗り換えるケースが多いと想定していた。非常にいい結果だったので何か継続できる方法があれば。

会長) これまで鉄道やバスの利用についてはあまりデータが取れていなかった。そうした点でも今回の取組みでは情報の把握が進んだのではないか。

委員) とても良い取組み、実験終了後も鉄道が時間はバスを有料で利用しているような形につながっているのではないか。県でも次年度からこのような協議の場を設けるよう検討している。

・その他

委員) 市内のこども園と小学校で乗り方教室を開催した。

会長) 乗り方教室の取組みは全国的になされている。

委員) 大学と地域、旅行会社と連携して、愛媛県から旅行者を五名に呼ぶツアーを企画している。松山から三本松までは鉄道を、三本松から五名までは路線バスを利用する予定。

会長) 本会は公共交通について議論する場であるが、本来の目的は計画にもあるとおり東かがわ市をよりよい街にするという「まちづくり」にある。公共交通に直接関係ないかもしれないと思うことでもいいので、本会や事務局まで報告してほしい。

3 令和4年度の振り返りと次年度の取組予定

○事務局より資料3・4に基づき実証実験の中間報告を行った。

委員) 資料4について、真にドアツードア型の移動支援を望む人は高齢者だけでなく、妊婦等も想定される。妊産婦等子育て世帯から移動支援に対する要望はないか、また、子育て世帯向けの移動支援をされていればご教示いただきたい。

事務局) 妊産婦への移動支援に係る要望は、今のところ事務局には寄せられていない。引き続き担当部署と情報共有しながら検討して行きたい。

会長) 妊産婦の場合は、産婦人科等で情報収集した方がいい。

委員) 資料4の事業について、実施期間が5か月となっているが、高齢者が生活スタイルを変えるには時間がかかると思われる。実証期間が短いように思うが、延長の可能性もあるのか、今後の展望を伺いたい。

事務局) 7月からの実施としたのは、次年度の事業は申請制を予定しており、周知や申請期間を考慮したもの。また、事業の検証や6年度以降の予算措置も含めてこのような期間とした。

事務局) 令和3年度に実施したグリーンスローモビリティの実験は4か月の期間で、後半には利用の定着も進んだことから5か月は適当な期間であると考えている。

委員) 資料4について、周知方法や説明会の計画をご教示いただきたい。

事務局) 75歳以上の対象者全員にチラシと申請書を送付予定。

委員) 社会福祉協議会のサロン活動等での周知も検討してほしい。高齢者は文書を送付されただけでは理解できないこともあるのでケアマネの会などでの周知も検討してほしい。

委員) 計画ができて2年になるが、この会の方向性が見えず、落としどころが分からない。先が見えないので、方向性を示してほしい。

会長) 東かがわ市はマイカー依存の高い地域、そうした中でも小海のあいりタクシー実証実験などを手探りでやっている。また、公共交通の利用者が減少していると資料にあるが、高齢になれば公共交通で移動できない人も増える。介護分野のフレイルの概念とも関連するが、利用できる層がどれくらいいるか、動ける層がどれくらいいるかを考えていくことも重要。計画も5年間で終わりではなく、考え方や取組みをモデルチェンジしながら続けることが重要である。また、まちづくりの側面ではモーダルミックス実証実験などは引田の学生が三本松高校に通えるまちにするという視点での検討も必要。

委員) 今年度の取組みも踏まえて、狙いを明確にした取組みになればいいと思う。

委員) 白鳥温泉の閉館の話があったが、五名福栄線については、路線バス側でも何らかの対応が必要と考えている。引き続き本会でも意見をいただけるとありがたい。

4 その他

(質疑等無し)

以上